

2005大阪研究大会

多言語社会研究会 年報

3号



# 目次

## 1 『日本語観国際センサス・日本調査（1998年）』の 結果より見た方言意識

その知見と仮説

札幌和男 005

## 2 スペイン・ガリシア自治州における二言語併用と 言語教育政策についての一考察

柿原武史 032

## 3 ベルギーのフランス語共同体における言語多様性について 多様性保護政策の下での内発的地域語とベルジシスム

石部尚登 050

## 4 英語の「負」の歴史と「英語学習者」像 中学校英語教科書の分析を通して

仲 潔 071

## 5 ルクセンブルクの社会と言語 現代の言語状況と、1984年言語法成立前後を考える

小川 敦 095

## 6 ミランダ語の成立 「単一言語国家」とされたポルトガルで認知された言語

寺尾智史 120



## 執筆者紹介（掲載順）

### 札埜和男（ふだの・かずお）

1962年生まれ。

慶應義塾大学法学部政治学科卒業。関西大学大学院総合情報学研究科修士課程修了。関西学院大学大学院社会学研究科博士後期課程単位取得退学。現在京都府立八幡高等学校国語科教諭。主な著書に『大阪弁看板考』（葉文館出版1999年）『大阪弁「ほんまもん」講座』（新潮新書2006年）がある。

主要業績：「ヨーロッパ価値観調査の内容とその意義」（『日本世論調査協会報よろん』第89号、2002年）、「方言教育論 — 臨床ことば学としての方言の役割」（『日本方言研究会第80回研究発表会発表原稿集』、2005年）「ことば・教育・文化・社会」（竹内常一編『授業づくりで変える高校の教室2国語』明石書店、2005年）「法廷という公の場における方言の役割—臨床ことば学としての方言〜」（『日本方言研究会第83回研究発表会発表原稿集』、2006年）

### 柿原武史（かきはら・たけし）

1974年生まれ。

博士（言語文化学）。

大阪大学大学院言語文化研究科博士後期課程修了。

現在、福岡大学外国語講師。

主要業績：『言語文化教育学の可能性を求めて — 言語文化教育研究論集』（森住衛監修、三省堂、2002年）、「La enseñanza del gallego y la actitud de los jóvenes hacia el castellano y el gallego」（『Linguística Hispánica』第28巻、関西スペイン語学研究会、2005年）、「スペインガリシア自治州におけるガリシア語教育政策に関する一考察」（『HISPÁNICA』第50号、日本イスパニヤ学会、2006年）。

### 石部尚登（いしべ・なおと）

1976年生まれ。

現在、大阪大学大学院言語文化研究科博士後期課程在学中。

主要業績：「ベルジシズムに対する規範主義的眼差しの今 — 言語的不安の発露としての規範主義 —」（『言語文化学』2005年）、「Belgicismes: criteres de distinction et correlation avec la classe sociale」（『電子化言語資料分析研究』

2005年)、「学術文献における《dialecte》の使用 — 「科学的意味」と「一般大衆の意味」の二分法について —」(『社会言語学』2004年)。

#### 仲潔 (なか・きよし)

1975年生まれ。

大阪大学大学院言語文化研究科博士後期課程修了(言語文化学博士号)。

現在、九州女子大学専任講師。

主要業績:『言語文化教育学の可能性を求めて』(編共著、三省堂、2006)、「制度論としてのJETプログラム:国際英語論の観点から」(『外国語教育研究』第6号、外国語教育学会、2003)、「英語教育における〈フランス語〉の排斥:フランス語とフランス人の同一性」(『シュンボシオン』、朝日出版社、2006)、「インドネシアの小学校英語教育事情」(『小学校の英語教育を考える:アジア諸国の事例から』、日本「アジア英語」学会、2006)、「〈生きた英語〉と分裂的言語観:『学習指導要領』に見る母語話者至上主義と英語の多様性」(『社会言語学』第VI号、「社会言語学」刊行会、2006)

#### 小川敦 (おがわ・あつし)

1975年生まれ。

修士(学術)

一橋大学大学院言語社会研究科博士後期課程在学中。

主要業績:「ルクセンブルク語という『国語』に関する考察」(『エネルギー』第31号)、2006年)

#### 寺尾智史 (てらお・さとし)

1969年生まれ。

神戸大学大学院総合人間科学研究科博士前期課程修了。修士(学術)。

現在、京都大学大学院人間・環境学研究科博士後課程在学中。神戸市長田区多言語放送局FMわいわい放送スタッフ(ポルトガル語・スペイン語)。

主要業績:「イタリアの現存ギリシア語圏 — 言語島の現状と将来 —」(年刊『地中海学研究』28号、地中海学会、2005年)、修士論文「ポルトガルにおけるミランダ語の成立 — 辺境言語マイノリティと南欧近現代史 —」(2006年)

[2005 大阪研究大会]

## 多言語社会研究会 年報3号

発行日	2007年5月30日 初版第1刷発行
発行	多言語社会研究会 事務局 連絡先：三元社気付 多言語社会研究会事務局 〒113-0033 東京都文京区本郷1-28-36 鳳明ビル 電話／03-3814-1867 FAX／03-3814-0979 郵便振替／00180-2-119840
印刷・製本	モリモト印刷株式会社